

田下大波筑  
センター  
実験

# 海拔39メートルへ急げ

## 津波避難所新設、初の訓練



新しく整備した避難場所に逃げる訓練参加者＝下田市五丁目の筑波大下田臨海実験センター

5分以内に集合した。非常ベルが鳴り、訓練を告げる緊急放送が流れると、施設から次々と学生たちが飛び出した。施設裏手の避難経路を駆け上り、最も早い人は52秒で到着。参加者は息を切らしながらも4分22秒で避難を完了させ、目標の5分以内に集まった。

この日は新設した避難場所への初めての実地訓練で、常駐職員、学生のほか、実習生や地域住民、市役所、消防、警察、県危機管理局の各職員も経路を確認した。訓練後、稲葉センター長は「目安にしていた5分以内の避難が達成できて良かった。これからも大震災を教訓に命を守る訓練をしていきたい」と話した。同センターは東日本大

下田市五丁目の筑波大下田臨海実験センター（稲葉一男センター長）は10日、敷地内で抜き打

ちの避難訓練を行った。

職員や学生、地域住民ら58人が参加し、新しく整備した海拔39メートルの広場へ

広場を新設。鍋田浜が近いから海水浴客も受け入れる。広場には防災倉庫も設置する予定。